

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7-9月期ユーロ圏GDP速報

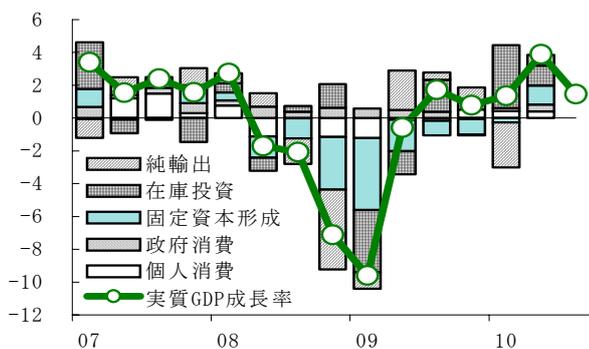
発表日：2010年11月12日(金)

～4-6月期からの減速は規定路線、10-12月期も緩慢な成長にとどまろう～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

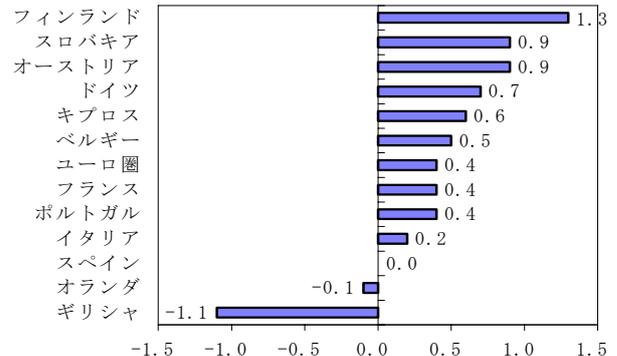
- 7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比+0.4%と概ね事前予想（同+0.5%）に沿った内容。一時的な要因にも助けられた4-6月期からの減速は規定路線。需要項目別の内訳は12月2日に発表予定だが、建設投資の反動減による固定資本投資の落ち込みや外需のプラス寄与縮小が、成長ペース鈍化の主因と見られる（左図）。個人消費、政府消費は引き続き小幅プラスとなった模様。
- 国別には公表10ヶ国のうちギリシャとオランダを除く8ヶ国がプラス成長（右図）。マイナス成長が続いた見込みの 아일랜드（12月末に公表予定）、前月比横這いにとどまったスペインなど、財政不安国の低迷が続いた一方、ドイツやフィンランドなど輸出回復の恩恵を受け易い国の好調が持続。オランダの小幅マイナスは化学製品や天然ガスなどの輸出減速が足を引っ張った模様。
- ドイツの成長率は前期比+0.7%と事前予想（同+0.8%）をやや下振れたが、過去2四半期が+0.1%ポイントずつ上方修正され、印象は悪くない。需要項目別の詳細は23日に発表されるが、個人消費、政府消費、固定資本投資、外需がほぼ均一に成長に寄与したとのこと（連邦統計局）。
- 月次指標の推移からは、10-12月期入り後も景気の拡大基調の持続が示唆される。但し、夏場以降のユーロ安反転の影響が今後ラグを伴って顕在化することや、財政不安の再燃による金利高騰や信用環境の悪化から周辺国景気が一段と下押しされるとみられ、緩慢な成長ペースにとどまろう。

■ユーロ圏実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2010年7-9月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
09/1-3月期	▲ 9.1	▲ 9.6	(▲ 8.6)	▲ 2.1	2.8	▲ 19.4	(▲ 3.8)	(▲ 1.0)	▲ 28.4	▲ 26.8
09/4-6月期	▲ 0.7	▲ 0.6	(▲ 3.0)	▲ 0.2	2.3	▲ 9.1	(▲ 1.4)	(2.4)	▲ 5.2	▲ 10.8
09/7-9月期	2.3	1.7	(1.3)	▲ 0.3	1.8	▲ 4.3	(1.9)	(0.5)	10.0	9.0
09/10-12月期	1.0	0.8	(▲ 0.5)	0.9	▲ 0.3	▲ 4.7	(▲ 0.0)	(1.3)	8.2	4.9
10/1-3月期	2.2	1.4	(4.1)	0.7	0.9	▲ 1.4	(3.8)	(▲ 2.7)	10.3	18.1
10/4-6月期	5.4	3.9	(3.2)	0.7	2.0	6.1	(1.2)	(0.6)	18.4	16.9
10/7-9月期	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。